

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（歴史的分野）
-----	------------

発行者	総合的な所見
自由社	<p>(ア) 第1の観点</p> <p>①見開きごとにタイトルを「平安京と摂関政治」モンゴル帝国と世界史の成立」等の項目で示している。また、タイトルの下に「どのように?」「なぜ?」など問いかけで追究する課題を示している。さらに、見開きの右ページの下段に「チャレンジ」を設定し、学習課題に対応した学習活動を示している。</p> <p>②索引に示されている人名の数は384である。そのうち、現代で扱われている人物の数は40である。また、国宝、重要文化財、世界遺産の資料にマークをつけることにより、文化遺産を示している。神話・伝承等に関する事例数は6である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代区分別のコラム等の数は、古代までが1、近世が1、近代が4、現代が2である。 <p>(イ) 第2の観点</p> <p>①主体的に学習に取り組めるように、大項目の導入において、絵図や写真を示し、予告編として単元で学ぶ主な人物と主な出来事を掲載している（1ページ）。また、キャラクターの問いとそれに対する答えが分かるページを紹介し、資料への興味・関心を高めようと構成している。</p> <p>②教科書で使うマークとロゴを紹介して教科書の見方を示し、学び方の具体例及び体験的な学習を実施するための工夫を示している。</p> <p>(ウ) 第3の観点</p> <p>①章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。各時代区分によってページ数が異なっている。補充的・発展的な学習の事例数は12である。</p> <p>②我が国に影響を与えた世界の歴史についての学習内容を充実させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モンゴル帝国と世界史の成立」「元寇」というタイトルで4ページにわたって記載し、「モンゴル帝国」「ユーラシア世界を結びつける」「元の日本征服計画」「二度にわたる元の襲来」「鎌倉幕府の滅亡」等の内容を取り扱っている。 <p>(エ) 第4の観点</p> <p>①掲載資料の内訳は、写真85、絵図78、地図29、図表・グラフ16、文書資料58、年表5、人物42であり、本文の該当箇所に資料番号がルビとして示されており、関連する資料や説明文が示されている。</p> <p>②側注の掲載数は156である。QRコード等の掲載がなく、ICTを活用した学習コンテンツに対応していない。</p> <p>(オ) 第5の観点</p>

	<p>①まとめ方の種類には、人物カード、人物伝記、地図、歴史用語ミニ辞典、年表、比較表、ひとこと作文、意見交換会がある。また、章末に、その時代についての学習をふり返るための、調べ学習、復習問題、学習のまとめをする活動が示されている。</p> <p>②話し合い活動に活用できる問いが、兄弟・姉妹のキャラクターが対話する形式で、章の始め・終わり・各ページに書かれている。また、「意見交換会」が設定されている章末もある。説明する活動として、見開き右のページ下段に、「チャレンジ」を設定し、章末にも設定している。</p>
東 書	<p>(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①見開きごとにタイトルを「モンゴルの襲来」「南北朝の動乱と室町幕府」「応仁の乱と戦国大名」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけ形態で1時間の追求する課題を示している。また、見開き右ページの下段に、「チェック」と「トライ」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。</p> <p>②資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」「世界の記憶」「無形文化遺産」のマークが付いている。また、巻頭の見開きに「日本の国宝・重要文化財」がまとめられている。神話・伝承等に関する事例数は5である。</p> <p>③日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数は、古代までが1、中世が2、近世が3、近代が3である。</p> <p>(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①見開き2ページにわたり、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表を掲載し、資料の読み取りやグループ学習について示している。また、キャラクターの問いにより、章及び各節の学習課題を導くよう構成している。</p> <p>②調べる手順や方法については、「テーマの設定」、「調査」、「考察」、「まとめ・発表」、「考察」と示している。記載の仕方については、「第1章 歴史のとびら」に「2節 身近な地域の歴史」を設け、調べ学習における、学習のポイントについて示している。また、各大項目の終わりに、「地域の歴史を調べよう」というコーナーを設け、身近な地域の調べ学習の例を示している。</p> <p>(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①総ページ304ページ。歴史との対話12、古代44、中世36、近世50、近代102、現代32、その他28である。</p> <p>小中一貫教育の視点として、「第1章 歴史のとびら」の「1節 歴史をとらえる見方・考え方」に小学校の学習要領で示された42人の人物や文化財、出来事を振り返る活動が示されており、各単元(章)の導入部でも、小学校社会科で学習した内容を資料や年表で振り返る活動が示されている。</p> <p>「地域の歴史を調べよう」で「広島復興と平和への思い」というタ</p>

イトルで、被爆地である広島戦後の復興について調べる学習が設定されている。

- ②古代はタイトル「ギリシャ・ローマの文明」、近代はタイトル「イギリスとアメリカの革命」、「フランス革命」、現代はタイトル「民主化と日本国憲法」で民主主義の来歴や人権思想の広がりについて示している。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①掲載資料の内訳は、写真133、絵図85、地図33、図表・グラフ27、文書資料44、年表5、人物56であり、他分野（地理・公民）や他教科との関連が示されている。
- ②ユニバーサルデザインフォントを使用し、ふり仮名の文字濃度を薄くしている。円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。また、本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分を色分けしている。ページの隅の色分けで、学習内容を示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①「中世とはどのような特色を持つ時代だったでしょうか」という問いに対して、「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四側面から、自分の考えを文章にまとめる。文章にまとめる前に、思考ツールに考えをまとめるように促している。意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。